

平成 18 年度日本認知症ケア学会・読売認知症ケア賞「奨励賞」

社会福祉法人 尼崎老人福祉会 グループホームいなの家 自治会（管理者：土谷千津子）

2001 年 4 月 20 日設立

【授賞理由】

世界に一つという認知症の人たちで作った自治会の活動は、「普通の暮らし」「当たり前の暮らし」という言葉の中に息づく生活を営むという意味と社会に対し役割を果たすという重要性を人びとに認識させるとともに、グループホームにおける見守りとはなにか、待つケアの大切さとはなにかを教えた。本賞を授与するとともに、今後ますますの活躍を期待するものである。

【施設概要】

いなの家は、尼崎市に於いて 2001 年 4 月に制度に先駆けて開設した個室・ユニットケアのけま喜楽苑の併設施設として同時に開設。RC 2 階建てであるが、一見木造の数寄屋造りのようなたたずまいである。また、1 階に 9 人のユニットしも、2 階に同じく 9 人のユニットかみ、がある。また、1 階には認知症対応型通所介護（介護予防も含む）並びに認知症対応型短期生活介護（介護予防も含む）を併設し、若年性認知症の方も含め地域の多様なニーズに応えている。

【事業活動・概要】

いなの家は 2001 年 4 月に新型特別養護老人ホームけま喜楽苑に隣接して開設。開設 1 年後、ある重度高齢者への不満から話し合いの必要性が起こり、その話し合いが問題解決へとつながったことをきっかけに、ユニットごとの自治会「いなの家」と「たちばな会」が発足した。

自治会の名称、役員を選出も入居者が決定。以来「自分たちの暮らしは自分たちで決める」を合言葉に、月に一度定期的に行われている。

自治会は「何かを決定する」場ではなく、「認知症」だからと意見を求められなくなった入居者にとって、堂々と「自己表現」「自己決定」ができる場として、日々の暮らしに欠かせないものとなっている。

認知症があっても「自分の思いを伝え」「他人の思いを理解し」「感じ・考える」力は充分に残っている。その「力」を発揮できる場として、また、社会性を保ちながら人との関わりを持ち続ける場として自治会のもつ意味は大きい。

2004 年秋国際アルツハイマー病協会（以下、ADI）の国際会議が京都で開催され、「いなの家」「たちばな会」を代表して両会長が自治会活動について報告した。認知症の人たちでつくった自治会への反響は大きく、世界でただ一つ（？）の自治会とも言われている。